

<おしらせ>

EIC ネットにおける 「地方の環境研究の紹介コーナー」の新設について

～全環研各機関から全国への情報発信に向けて～

国立環境研究所 環境情報センター 白井 邦彦

1. はじめに

国立環境研究所環境情報センター（以下、「情報センター」という）では、環境基本法第27条の規定に基づき、環境教育・学習の振興および民間の環境保全活動の促進に資するため、環境情報の提供を図ることを任務としており、その一環として平成8年3月に環境情報提供システム（EIC ネット）の運営を開始した。

当初はパソコン通信システムからスタートしたが、平成9年1月にはインターネットを通じたウェブサイト（いわゆるホームページ、<http://www.eic.or.jp/>）の運営に移行し、平成13年4月に国立環境研究所が独立行政法人として衣替えした後も、独立行政法人国立環境研究所法第10条の2の規定（環境の保全に関する国内及び国外の情報の収集、整理および提供を行うこと。）に基づく業務として、情報センターにおいて運営を継続している。なお、EIC ネットの日常運用は、(財)環境情報普及センター（以下、「普及センター」という）が実施しているところである。

2. 本コーナー新設の背景

全国環境研協議会（以下、「全環研」という）においては、多くの会員各機関それぞれのホームページは運営されているものの、全環研としてのホームページは一時期運営されたことがあったのみで、その後はストップしたままであった。

一方、EIC ネットは冒頭に記したように、「環境情報の提供」が大きな任務となっているが、これまで、環境・公害問題の最前線である全国各地で発生する「地方の環境情報」の提供といった面

The screenshot shows the EIC Net website interface. At the top, there are navigation links for '国内ニュース' (Domestic News) and '海外ニュース' (Overseas News). Below this, there are several news items with titles and brief descriptions. For example, 'H教授の環境行政時評' (H Professor's Environmental Administration Time Review) and 'Pick Up! ピックアップ' (Pick Up! Pick Up). There are also sections for 'Topics!' and 'News / 環境ニュース' (News / Environmental News). The interface is text-based with some icons and a search bar.

図 1

では情報が手薄であった。

そこで、EIC ネットの中に、全環研および情報センター両者の目的に沿った新しいページとして、本コーナーの新設を企画したものである。

3. 検討経過と結果

平成13年度末、新しいページの開設に向けて、全環研の会長機関である新潟県保健環境科学研究

所の情報担当者と情報センターとの間で検討を開始した。新しいページは、地方の環境研究等に関する最新情報を広く一般に提供するとともに、全環研ホームページとしての機能をも併せ持たせることを目標に、普及センターの担当者も交えて検討を継続した。

提供する情報は、全環研の会員各機関からの直接の書き込みによって行うこととし、ページのイメージを固めていった。そして、平成14年の夏季から普及センターにおいて設計を開始し、全環研理事会の開催予定時期に合わせて画面イメージのプロトタイプを作成作業を進め、平成14年10月17日に新潟市で開催された同理事会において、情報センターから参加者に対してプロトタイプに基づく概要の説明を行った。

さらに、平成15年1月9日に東京都で開催された全環研総会に合わせて試験運用版のページを作成し、仮URLを設定したうえで、同総会において情報センターから周知をし、2週間ほどの期間の試用及び意見等の提出を依頼した。

その後、試験運用期間中に寄せられた意見等を踏まえた改善を加え、平成15年2月17日に本格運用版のページを作成した。同日、全環研会員各機関に対して、機関および部会ごとのIDとパスワードを電子メールにて送付し、提供情報の入力開始を依頼した。そして、ある程度の情報の蓄積を待って、平成15年3月3日に一般公開の運びとしたものである。

なお、これに先立ち、平成15年2月20日に国立環境研究所において開催された「全国環境研協議会と国立環境研究所との協力に関する検討会」の席上で、情報センターから一般公開の旨の通知を行っている。

4. コーナーの内容構成について

4.1 本コーナーの概要

「地方の環境研究の紹介コーナー」(図2 <http://www.eic.or.jp/zenkanken/index.html>)は現在、EIC ネットにおける「ライブラリ」の一つとして位置づけられている。

コーナーは、大きく分けて①「研究情報」、②「イベント情報」および③「全環研の紹介ページ」の3部分から構成されており、このほか、トップ

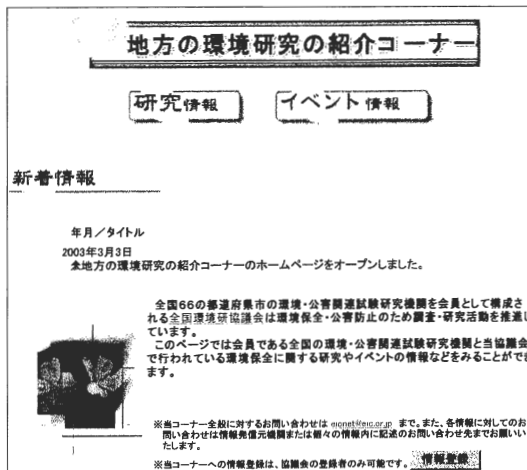


図 2

ページには④「新着情報」として、新規にアップロードされた情報の標題等を紹介するエリアがある。①および②は、全環研会員各機関からの直接の書き込みによって構成され、③および④は、全環研からの情報提供に基づいて、普及センターで書き込み作業をすることとしている。

4.2 研究情報

「研究情報」は、各機関において実施された研究成果等の概要を平易に記述することとしている。情報には「標題」、「研究機関名」、「研究者名」、「研究結果概要」などの項目が含まれ、利用者の検索の便も考慮して「分野の分類」も記入することとしている。

「研究情報」を指定すると、目次画面が現われる (<http://www.eic.or.jp/zenkanken/work/index.php> 3)。

目次画面の「標題」をクリックすると、情報内容画面が表示され、「機関名」をクリックすると、当該機関が書き込んだ全情報の一覧が表示された後、さらに情報内容の画面に移行することができる。

4.3 イベント情報

「イベント情報」は、全環研の会員各機関が主催、共催または関与するイベントに関する情報を利用者にお知らせするページである。利用者が一般国民であることを踏まえ、オープンなイベントの紹介を原則とするが、イベント自体はクローズドなものであっても、関連情報の提供が可能であ

地方の環境研究の紹介コーナー

研究情報 イベント情報

HOME > 協議会組織一覧

協議会組織一覧

●全国環境研協議会組織図

全国環境研協議会

支部

- 北海道東北支部(14道県市)
- 関東・甲信・静支部(15都県市)
- 東海・近畿・北陸支部(16府県市)
- 中国・四国支部(10県市)
- 九州支部(11県市)

部会

- 広報部会
- 企画部会
- 酸性雨調査研究部会
- 環境生物部会
- 精度管理部会

支部名	No.	機関名	備考
北海道・東北支部			
	1	北海道環境科学研究センター	
	2	苫小牧地方環境監視センター	
	3	青森県環境保衛センター	
	4	岩手県環境保衛研究センター	支部長
	5	宮城県保衛環境センター	
	6	秋田県環境センター	
	7	山形県環境科学研究センター	
	8	福島県環境センター	
	9	新潟県保衛環境科学研究所	
	10	札幌市衛生研究所	
	11	仙台市衛生研究所	
	12	新潟市衛生試験所	
	13	郡山市公害対策センター	
	14	いわき市公害対策センター	
関東・甲信・静支部			
	15	茨城県公害技術センター	企画部会長
	16	栃木県保衛環境センター	酸性雨調査研究部会長
	17	群馬県衛生環境研究所	
	18	埼玉県環境科学国際センター	会長
	19	千葉県環境研究センター	支部長
	20	東京都環境科学研究所	副会長
	21	神奈川県環境科学センター	
	22	山梨県衛生公害研究所	

図 3

るなど、何らかのオープンな情報が含まれているものに限り書き込むこととしている。

利用者はイベントの開催月日ごとの一覧をカレンダー表示で閲覧できるほか、地域・機関やイベントのジャンルごとまたはフリーなキーワードによる検索を行って情報を絞り込むことも可能となっている (<http://www.eic.or.jp/zenkanken/event/index.php3>)。

なお、EIC ネットにはもともと「イベント情報」のページが存在し、「イベント情報」のページに書き込みを行うと、EIC ネット全体の「イベント情報」のページにも自動的にコピーされるしくみとなっている。

4.4 全環研の紹介ページ

トップページ下部の説明文中にある「全国環境研協議会」をクリックすると、「協議会組織一覧」のページ (図 3 <http://www.eic.or.jp/zenkanken/member.html>) が現われる。全環研および5部会の概要紹介のほか、会員各機関ごとの所在地や電話番号等の属性情報が紹介されている。これらの情報は、情報センターが全環研から提供を受け、普及センターにおいて書き込みの作業を行っている。

4.5 新着情報

このコーナーのトップページ (図 2) の中央には、「新着情報」のエリアが設けられており、各機関が書き込んだ情報のうち重要なものについて、書き込み機関が普及センターに連絡することによって、普及センターにおいて「書き込み年月日」および「情報のタイトル」をアップロードし、利用者への周知を図ろうとするものである。

5. 今後の展開

本コーナーは、全国各地に所在する全環研会員各機関の研究情報等を広く一般国民に提供するものであり、各機関による書き込みによって初めて成立する。また、EIC ネット全体のページアクセス数は平成14年度においては月平均250万件を超えているなどかなり多くの利用がなされているホームページであるといえるので、情報公開の促進が叫ばれるなか、各機関におかれては本コーナーを十分に活用され、平易な表現による活発な情報発信を大いに期待するところでもある。

また、前述のように、「全環研ホームページ」としての性格も併せ持つコーナーとして、今後、全環研会員機関間での連絡等を行うため、クロズドな掲示板により目的別に分類した情報交流の場の設定、または部会等の別のメーリングリスト(登録メンバーが設定されたアドレスにあててメールを送信すると、全登録メンバーにメールが届くしくみ)の作成などの検討を行うほか、一定期間の運用のうえ、利用者からの意見等を収集して検討材料とするなど、全環研、普及センターおよび情報センターの3者でさらに相談しながら、本コーナーの改善を図っていくこととしている。